

マーケットの動き (2023年1月30日～2月3日)

先週の為替市場は前週末比、米ドルは対円で上昇（円安）しました。欧米金利の低下を受けて円買い・米ドル売りが進み、米ドルは128円台まで下落しました。その後、3日に発表された1月の米国雇用統計が市場予想を大幅に上回ったことから、労働需給の引き締まりを意識した円売り・米ドル買いが進行し、米ドルは131円台まで上昇して週を終えました。ユーロは、前週末比、対円・対米ドルともに上昇しました。

投資環境見通し (2023年2月)

米ドル、ユーロともに円に対して、変動率上昇を伴いながらレンジ内での動き

日銀が金融緩和策を修正するとの根強い見方に加えて、投資家の間で広がるFRB（米国連邦準備制度理事会）の利上げ停止観測は円高圧力とみられます。一方、米国では景気に対する悲観的な見方が後退し、欧州では暖冬による天然ガス価格下落に加えて中国における社会・経済活動再開に対する期待も景気にプラスとみられることから、米ドル、ユーロはともに円に対して変動率の上昇を伴いながらもレンジ内で推移するとみています。

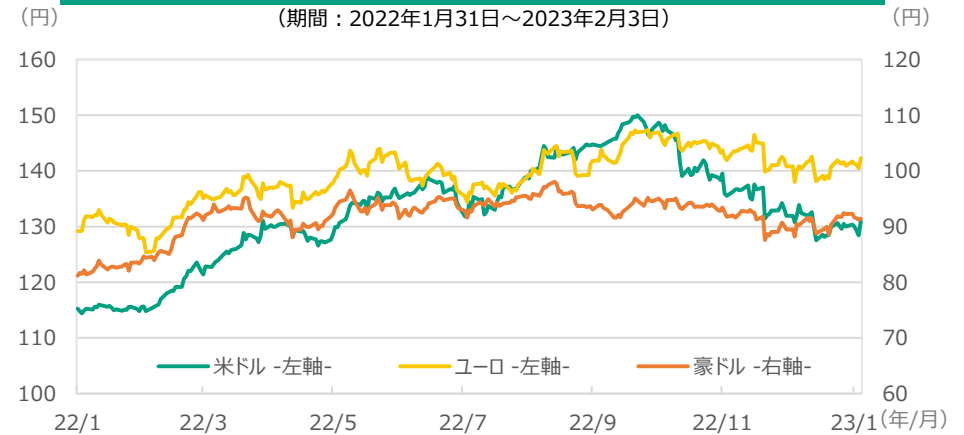
	2月3日	変動幅 (円)			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
米ドル/円	131.04	1.07	0.28	▲3.35	16.15
ユーロ/円	142.28	1.38	4.26	6.14	11.10

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202302_outlook.pdf

為替レートの推移 (対日本円)



為替レートの推移 (対米ドル)



※出所: FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>